

玄葉光一郎外務大臣が、北方領土視察のため来根し、羅臼からの巡視船による洋上視察を行った後、納沙布岬から島の様子を望みました。

その後玄葉大臣は、北方四島交流センターで行われた元島民や返還運動関係者との懇談の席上、洋上視察の際に元島民の返還運動関係者が言った「このまま故郷の色丹島に帰りたい。」とのつぶやきが「生忘れられない言葉となった。」と話し、会場から出された要望や思いを述べる声に真剣に耳を傾け「直接話を聞くことができてよかった。皆さんの思いを胸に、全力で北方領土問題解決にあたりたい。」と、決意を述べました。

## 全力で北方領土問題解決へ

—玄葉外務大臣が領土視察1/14—



## 大人も子どもも真剣勝負

—根室子どもカルタ大会1/15—

百人一首を通じて礼儀と教養を高めることを目的とした根室地域子ども会育成連絡協議会と市教委主催の子どもカルタ大会が、青少年センターで開かれ、市内小中学校から26チームが参加しました。

子どもたちははかるたの札を真剣な表情で追い、札が読み上げられるたび「とった!」「ナイス!」といった声が飛び交い、会場は活気に溢れていました。

今回初めて設けられた「大人体験コーナー」では、柴山教育長率いる即席チームと華岬小学校チームとの交流試合が行われ、接戦の末大人チームの敗北となりましたが、楽しい交流の時間となりました。



## 新年にいっききと筆走る

—子ども書き初め教室1/12—

新年の伝統行事「書き初め」に親しんでもらおうと、小学生を対象に例年開催されている公民館主催の「子ども書き初め教室」が1月6日から始まり、5日間の開催中140人の子どもたちが参加しました。

北方書道研究会の会員が講師を務め、筆の持ち方や運び方を丁寧に指導する中、12日の会場となった総合文化会館には、19人の子どもたちが参加し、「平和」や「初春」などの課題に挑戦しました。

自分が納得する作品が出来上がるまで、何度も書き直す子どもたちの表情は真剣で、半紙いっぱい書かれた文字は、どれも力強い作品となりました。



## オリジナルのたこを作成

—新春たこ揚げ交流会1/7—

ねむろコミュニティスポーツくらぶ「ぶらっと」主催のたこ揚げ交流会が青少年センターで開かれ、親子連れなど市民30人が参加しました。

六角たこには、子どもたちのお気に入りのアニメキャラクターが描かれたものや、被災地復興、根室再興の願いを込めた「立ち上がれ日本!」「負けるな根室!」といったメッセージを書き入れたものなど、思い思いのたこが作り上げられました。

完成後は、少し強い風が吹くグラウンドへ移動し、たこ揚げに挑戦。子どもたちは、顔を真っ赤に染めながら風に向かって走り、自慢のたこを大空へ高々と飛ばし歓声を上げていました。



## 充実の日々を報告

—山口依子さん市長表敬1/18—

JICAの青年海外協力隊としてベトナムへ派遣されていた根室出身の山口依子さんが、現地での活動報告のため長谷川市長を訪問しました。

農村全体が国の文化財となっているベトナムドンラム村の歴史的建造物の修復と、保存支援や住民への教育普及活動が、現地の英字新聞で紹介された記事などを市長に見てもらいながら「ベトナムでの生活は、とても充実した日々でした。」と、2年3カ月に及ぶ活動を振り返る山口さんに、長谷川市長は「この経験をこれからの活動に生かしてほしい。」と、労をねぎらっていました。

